

週 報

こひつじ

第41巻 19号
 大津キリスト教会
 菊池郡大津町室 119
 TEL 096-293-4470
 FAX 096-293-4961
 牧師 米村 英二

四月二〇日に召天者記念礼拝が行なわれた。以下はそのときの説教。

多くの証人たちに囲まれて

こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、いつさいの重荷とまつわりつく罪とを捨て、私たちの前に置かれている競走を忍耐をもつて走り続けようではありませんか。

(ヘブル 一二の二)

その一 悲しみに沈むことのないため

今日は召天者記念礼拝です。毎年、イースターの時期にこれを行なっています。兄弟たち、あなたがたに知らないでいてもらいたくありません。あなた

は、私たちの教会でも数人の親しい方が天にお送りしました。まださびしさのいえない方もあるかもしれませんが、今日は、召された方がたを偲びつつ、ともに礼拝をささげたいと思います。

最初に紹介するのは次の言葉です。

「眠った人々のことについては、兄弟たち、あなたがたに知らないでいてもらいたくありません。あなたがたが他の望みのない人々のために悲しみに沈むことのないためです。私たちはイエスが死んで復活されたことを信じています。それならば、神はまたそのように、イエスにあつて眠った人々をイエスといっしょに連れて来られるはずです」(一テサロニケ四の一四)

眠った人々とは、これまでに亡くなった方がたのことです。

愛する家族や友人が亡くなると、人はみな悲しみます。そしてその悲しみをさらに深くするのは、もう二度と会えないのではないかという思いです。そのことについて、聖書は、こう言うのです。

「眠った人々のことについては、兄弟たち、あなたがたに知らないでいてもらいたくありません。あなたがたが他の望みのない人々のように悲しみに沈むことのないためです」

なぜ、悲しみに沈む必要はないと言っているのでしょうか。

かつて内村鑑三という有名なクリスチャンがおりました、彼は一九歳になる娘ルツ子を病気で失います。彼女は最後に「もう行きます」という言葉を残して天に召されたのです。「死にます」でも「消えます」でもなく、「もう行きます」という言葉でした。内村はその言葉に深く慰められ、天国の存在を心の底より確信するようになったのです。

彼は、のちにある友人にこう書

「彼女の最後の言葉は、ハガキで申し上げましたとおり『もう行きます』でした。彼女はただ行ったのであり、しかもその顔に残ったのはつきりしたほほえみは、彼女が悪い所に行ったのではなくて、善い、美しい国に行ったのであることを示していました。あたかも天国のおもかげが、その最後の顔に現われているようでした。それは、この世とかの世の明確なつながりでありまして、霊魂の不滅と、来世の存在との事実の証明とも称しうるものでした」

内村は、娘の「もう行きます」の言葉を真正正銘そのまま受け取り、死後の世界は想像ではなく、事実であると信じたのです。

そしていよいよ、その告別式が終わり、墓地へゆき、柩が地下に納められ、遺族が最初にその土をかけることになったとき、内村はその土をつかんで手を高くあげ、「ルツ子さん万歳」と叫びました。

後に東京大学の総長となった矢内原忠雄は、そのとき信仰をもったばかりの一九歳の少年でしたが、

その光景を見て、全身雷で打たれたように、打ちすくまれてしまったと書いています

娘が死んだ。にもかかわらず、万歳と叫ぶ。いったいこれは何だろう。

「これは、ただごとではない、キリスト教を信ずるということとは、なまやさしいことではないぞ、一生懸命のものだぞ」

そのときの強い衝撃が、矢内原の生涯の大きな転機となったというのです。

なぜ内村は、娘ルツの葬式に、これは葬式ではない、万歳だ、と言ったのでしょうか。

「死は終わりではない、死は永遠の別れではない」

と信じていたからです。

召された者たちは今も生きています。やがて私たちも死を迎えるだろう。そのとき、私たちは、彼らと天国で再び会うことができる。

クリスチャンとはそういう信仰、希望をもって生きている人たちなのです。

パウロが、他の望みのない人々のように悲しみに沈んではならな

いと言ったのは、そういう理由からなのだと思います。(続)

今日の礼拝

○礼拝は午前10時半から。

○教会学校は午前10時半から。

○説教は米村牧師。

今日の礼拝後の活動

○イス運び。合同礼拝に備えて、こひつじ館に保管してあるイス4

○脚を教会堂に運びます。人手が要りますので、ご協力ください。

○台所のクリーニングを六月に業者に頼んでいます。その前に不要な食器、台所用品の処分をお願いします。

先週の礼拝

○司会は林田実季さん。

○説教は林田はるかさん。ヨナ書全体から、神がどれほどひとりひとりを尊く思っておられるかを語ってくださいました。

先週の礼拝参加者

○礼拝参加者は、第一礼拝が四名、第二が四〇名、合計八一名(男二七、女五四)。それに子ども

が五名、合わせて八六名でした。

○松本夫妻のお孫さんであるバシウ君(ニューヨーク在住)、高丸夫妻の友人菅野さん(千葉在住)、

はるかさんの友人鹿子木さんが礼拝に出席してくださいました。

消 息

○甲木銀子さんが、五月一七日に満一〇〇歳になられます。ますますお元気であられますように。

○腰痛のため入院中の本田佳代子さんのために祈りください。

○木下英樹(東海大学勤務)・美樹さん家族は、オーストラリア・ブリスベンの大学留学のため、五月一三日に出発されました。滞在は一年間の予定です。

合同礼拝について

○コロナ以降、長い間、礼拝を二回に分けて行なってきましたが、これからは月に一度合同礼拝を行

ないます。問題がないようであれば、やがては二部形式をやめて、一回だけの礼拝に移行する予定です。

○今日が最初の合同礼拝です。

○次回は、六月一日。

米村牧師夫妻の長女真紀さんの家族が来会。音楽と証をしつづけます。

牧師の予定

○六月一四日(土)は、午前七時半から熊本YMCAで行なわれる熊本朝拝会で奉仕をします。

○六月二九日(日)ー七月一日(火)に静岡県浜松市で行なわれる「ジョン・ボストロム宣教師を偲ぶ会」

に出席するため米村牧師夫妻は出張です。七月三日(木)帰熊予定。

牧師のメールアドレス

yonemura@ja2.so-net.ne.jp